

プログラム名 (40字以内)	【京都府亀岡市】暮らしの中で環境に配慮した物質の循環を考える		
団体名/所属	亀岡市役所／市長公室		
活動区分	フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	自動抽選
募集人数	6人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	特になし		
活動期間	2025/9/19(金)～9/20(土)	主な活動予定場所	亀岡市内
プログラム実施の目的	全国初のプラスチック製レジ袋の提供禁止条例を制定し、実践している亀岡市の挑戦を実体験により学び、それらの発端や背景、現状から環境問題への取組を考える契機とする。		
具体的な内容(800字程度)	亀岡市は、京都市の西部に隣接しており豊かな自然の象徴である保津峡谷があり、四季折々の美しさを体感できる「保津川下り」「嵯峨野トロッコ列車」には毎年多くの観光客が訪れている。しかし大雨や台風による増水の度に多量のプラスチックごみ(以下、プラごみという。)やレジ袋が漂着堆積し、景観を損ねていた。そのため船頭や市民が定期的にゴミの回収作業を続けてきたが川からゴミがなくなることはなかった。また、プラごみは一度川から海に流れ出すと分解されないままマイクロプラスチックとなり、様々な生物の体内に取り込まれることによる生態系への影響が懸念されている。そのため、本市では2018年に市議会とともに「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を発表し、2021年1月1日に全国初となる「プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」を施行。市内事業者は買い物客に有料でもレジ袋を提供することが禁止となった。 現在では、エコバック持参率が約98%に達している。また、給水ステーションを市内の様々な施設等に設置しており、マイボトル持参によるペットボトル削減にも取り組んでいる。 さらには、各家庭で発生する落ち葉や選定枝等の無償回収も開始し、それらをたい肥化することで有機農業の推進も図っている。 こうした市民への環境意識の変革のきっかけとなっているのが2018年から取り組んでいる「かめおか霧の芸術祭」である。環境施策にアートの視点を取り入れることで環境問題に無関心な層にまで訴求させることを狙いとしている。 また、亀岡市は全国でわずか2か所にしか生息していない天然記念物アユモドキがいるまちである。 <具体的な内容> 1日目 環境先進都市及びレジ袋提供禁止を目指すことになったきっかけ等を市長及びキーパーソンが説明。 午後は、サステナブル製品工場や紙おむつリサイクル工場、プラゴミの分別工程等を見学する。 2日目 午前中は、ラフティングボートによる保津川の漂着ごみ調査(こども海ごみ探偵団活動に同行)に参加する。 https://www.city.kameoka.kyoto.jp/uploaded/life/60438_140468_misc.pdf 午後は、天然記念物アユモドキ(絶滅危惧種1A類)について説明の後、川に入りアユモドキをはじめとする水生生物の調査活動を行う。 活動後、アユモドキカードゲームを体験。 終了解散。		
【総額】参加するための費用	38,270円		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	9,000円(1泊朝食付)但し、現時点の宿泊料金のため値上げの可能性あり		
【内訳】参加するための費用(交通費)	27,270円(東京⇄亀岡)＜13,540円×2(往復)＞		
【内訳】参加するための費用(その他)	2,000円(海ゴミ探偵団参加費用)		
奨励金額(予定)	25,000円		
備考	期間中の食事代等は各自負担となります。		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト	亀岡市HP: https://www.city.kameoka.kyoto.jp/site/kankyou/		
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者(応募団体)の参加の有無	参加する		